

令和6年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

美濃加茂市地域公共交通活性化協議会

平成27年3月25日設置

令和2年9月 第2次美濃加茂市地域公共交通網形成計画策定
(計画期間：令和2年度～令和7年度)

令和5年6月19日 フィーダー系統 確保維持改善計画策定等

調査業務 (計画策定) 令和8年3月 地域公共交通計画策定予定

評価対象の地域公共交通確保維持事業

- ・ 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金
- ・ 地域公共交通調査事業

1. 【Plan】協議会等が目指す地域公共交通の姿

【美濃加茂市の概要】

●人口：57,599人（令和6年12月1日）

●鉄道：美濃太田駅において、JR高山本線、JR太多線、長良川鉄道越美南線が交差しており、鉄路が地域の公共交通の幹線として重要な役割を担っています。

●バス：**あい愛バス**（コミュニティバス）を中心に東鉄バスや各定住圏域が運行するバスも一部市内主要施設を運行しています。

【第2次美濃加茂市地域公共交通網形成計画】

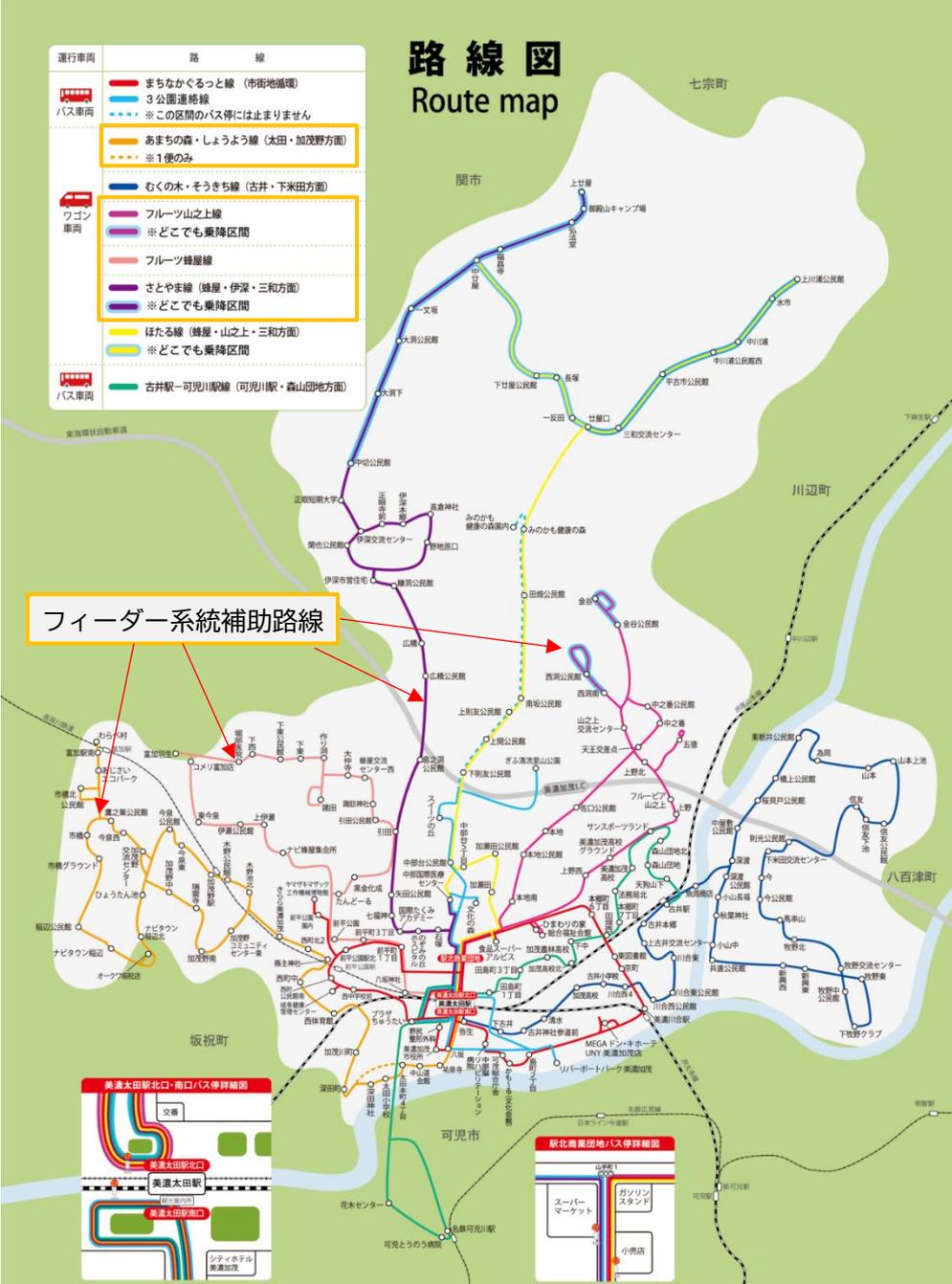
●交通将来像：いつまでも住み続けたい豊かな暮らしを実現するため、「**安心・安全で便利な公共交通をみんなで育み、いつまでも健康で豊かに暮らせるまち**」

●美濃加茂市における公共交通維持・活性化の基本方針

- 基本方針1** まちづくり計画と整合した市域の一体性の強化と定住自立圏の広域的な連携に資する利便性の高い公共交通ネットワークの維持・活性化を図ります
- 基本方針2** 多様化する移動ニーズへの対応と健康や安心安全の向上に資する各種利用促進施策を展開します
- 基本方針3** 地域の魅力ある観光資源と先進技術が連携した公共交通の利便性を高める新たなサービスを提供します
- 基本方針4** 地域の愛着ある公共交通の維持・活性化に向けた多様な主体が連携した取り組みを推進します

●美濃加茂市地域公共交通網形成計画の目標

- 目標1** 美濃太田駅での乗継利便性が向上します。
- 目標2** 健康的な乗り物である公共交通の利用者が増加します。
- 目標3** 魅力ある観光施設へのアクセス利便性が向上します。
- 目標4** 持続可能な公共交通に対する関心が高まります。



①令和6年4月1日ダイヤ改正

・バス停の追加、遅延解消、乗継利便性向上を目的としたダイヤ改正を実施。

➡新規バス停への利用者増及び遅延解消により利用の満足度向上。月1回は遅延の問い合わせがありました。ほぼなくなりました。

②公式LINEの運用開始

・知りたい公共交通の情報をすぐにキャッチできるようになりました。

➡例えば「いまどこ？」をクリックするとバスがどこを走っているかがわかる。

安心感に繋がる一方で何分遅れているのかリアルタイムで知りたいとの声も…



⑤あい愛バスの乗り方講座を実施

・出前講座にて、乗り方講座を計5回実施しました。その中でも山之上小学校の児童に対しては、乗り方講座後は実際にバスへ乗ってもらいバスを身近に感じてもらいました。

➡若いうちからバスに触れる機会をつくりバス文化の定着を図ることができました。

③あい愛バスポイントカード企画

・地域の方にもっとあい愛バスに乗車してほしいとの思いから加茂高校生の生徒が企画しました。

➡利用者数も前年度人比較し10%弱増加。高校生が企画することにより関心が高まり、バスの利用促進となりました。



④1日乗車券の導入

・乗り継ぎが必要となる利用者の運賃負担の軽減を図るため「1日乗車券」を導入し、不公平感の低減と利用促進効果を図りました。

➡販売実績57件、利用実績225件と利用促進及び不公平感の解消につながりました。



⑥地域公共交通調査事業 ～実施した調査およびその結果明らかになったこと～

事業内容	結果概要
都市特性と公共交通の現状把握	ビッグデータ等を活用し交通流動特性の調査を行いました。結果を基に、都市特性や公共交通の現状について把握し、上位・関連計画を整理しています。
各種ニーズの把握	市民アンケート、高校生アンケート、バス利用者アンケート等の調査を実施し、公共交通の現状や課題等の把握をし、今後の将来像について整理をしています。
地域公共交通の課題整理と地域公共交通計画案の検討	利用状況やニーズ調査等を基に分析をし、計画目標について達成度評価を行っている。整理してみえた今後の課題を解決するための方針や計画を検討し、とりまとめを行っています。
地域懇談会や協議会の開催等	地域の意見や意向を広く把握し、地域公共交通計画に反映するため、地域懇談会8回と出前講座を実施し、地域ならではの意見を聴取しました。地域活性化協議会は令和6年6月に行い、2回目は令和7年1月に開催。調査内容を共有し、今後の方針について意見交換を行いました。

地域公共交通調査事業の結果の活用

●調査の結果（速報値）の一部になりますが、以下の現状を把握した結果、それを解決するための方針や手段を計画に反映し、目的が達成できるようにします。

現状

- ・地域によって、行きたい場所が様々である。
- ・地域によって、傾斜が急で歩くのが大変な地域である。
- ・コミュニティバスでは行きたい時間に行けなかったり、帰りの時間が合わなかったりと限界がある。
- ・バス停まで遠く、乗り継ぎが大変。
- ・バス停がどこにあるのか知らない。
- ・公共交通だけではなく、観光と合わせて考えてほしい。
- ・通学に利用するには、バス停が遠いし、乗り継ぎに時間がかかる。



方針

- ・移動実態の把握をし、データに基づいた移動手段の確保
- ・公共交通で楽しくおでかけをして家に帰ってこられるような移動手段の確保
- ・地域のニーズ、実情に応じた移動手段の確保
- ・家から学校まで公共交通で通える移動手段の確保
- ・高齢者が日常生活に困らない移動手段の確保



手段

- ・ダイヤの本数・ルート・時間等の見直し
- ・継続した利用促進事業（出前講座、あい愛バスに親しむ日、バスロケの拡大等）
- ・A I デマンドバスの検討



目的

誰もが日常生活において便利に移動できる手段を確保・維持し、安心・安全で便利な公共交通をみんなで育み、いつまでも健康で豊かに暮らせるまちの実現を目指す。

3. 【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察

- **目標1** 美濃太田駅での乗継利便性が向上します。

【指標】 乗り継ぎに関する不満度割合（バス利用者アンケート）

	目標値【R7】	計画策定【R1】	現況値【R6】
乗り継ぎの際の待ち時間	28%未満	29.7%	28.6%（速報値）
乗り継ぎに関する情報や案内	14%未満	15.9%	17.9%（速報値）

- **目標2** 健康的な乗り物である公共交通の利用者が増加します。

【指標】 公共交通の利用割合（市民アンケート）

	目標値【R7】	計画策定【R1】	現況値【R6】
公共交通の利用割合	35%以上	30.0%以上	26.3%（速報値）

- **目標3** 魅力ある観光施設へのアクセス利便性が向上します。

【指標】 主要観光施設入込客数（岐阜県観光入込客統計調査）

	目標値【R7】	計画策定【R1】	現況値【R5】
主要観光施設入込客数	現況値以上	110万人	109万人

- **目標4** 持続可能な公共交通に関心が高まります。

【指標】 あい愛バス運行に係る利用者1人当たりの行政負担額

（単位：円）

バス事業年度 指標	R7目標値	計画策定【R1】	R4実績	R5実績	R6実績	R6評価 (A, B, C)	
利用者1人当たりの額 (負担額/利用者数)	1,204以下	1,204	1,401	1,322	1,172	A	達成
市の負担額	—		164,339,704	178,037,600	175,418,243	—	

【指標】 地域住民等が主体または地域住民等と連携した取り組みの件数（美濃加茂市とりまとめ）

	目標値【R7】	計画策定【R1】	現況値【R5】 / 【R6】
取り組み件数	年2件以上	2件	1件/12件

3. 【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察

●計画全体の目標 みんなで育む公共交通を利用

【指標】公共交通の年間利用者数（事業者提供データ）バス年間利用者数 ※国庫補助対象路線は**橙色**

	目標値【R7】	計画策定【R1】	現況値【R6】
鉄道（駅）年間利用者数	170万人	165.6万人	調査中
路線バス年間利用者数（東鉄バス八百津線）	14,000人	14,000人	8,116人（バス事業年度）

（単位：人）

路線名	バス事業年度	実績値						R6評価 (A, B, C)	
	目標値	R6 (目標)	R6 (実績)	R5 (実績)	増加率 (R5→R6)	R6 1日当たり	便数 (便)	R6 1便当たり	
あまちの森・しょうよう線	21,800	22,836	21,410	106.7%	62.9	8	7.9	A	達成
むくの木・そうきち線	17,450	17,362	16,299	106.5%	47.8	8	6.0	B	未達成
フルーツ山之上線	7,400	9,169	7,889	116.2%	25.3	8	3.2	A	達成
フルーツ蜂屋線	7,400	9,649	8,937	108.0%	26.6	8	3.3	A	達成
さとやま線	12,000	15,751	12,977	121.4%	43.4	8	5.4	A	達成
ほたる線	8,700	13,042	10,763	121.2%	35.9	8	4.5	A	達成
古井駅－可児川駅線	20,600	27,628	23,234	118.9%	76.1	9	8.5	A	達成
まちなかぐるっと線	18,910	19,224	17,731	108.4%	53.0	8	6.6	A	達成
3公園連絡線	5,740	14,963	15,421	97.0%	41.2	8	5.2	A	達成
合計	120,000	149,624	134,661	111.1%	412.2	—	50.6	—	—

▼目標達成の理由について

一部調査中の数値もあり確定していない部分もありますが、あい愛バス(コミュニティバス)に絞ると、9路線の内8路線で利用者数が増加し、それに応じて1人当たりの負担額が減少したことにより、それぞれの目標を達成しました。利用者数増加の理由としては、ダイヤ改正による利便性向上、通学・通院・通勤等へのアクセス向上を図ったことや、利用促進事業(アプリやキャッシュレス決済対応、出前講座、市民まつりの出展、1日乗車券販売、あい愛バスに親しむ日(無料乗車期間)等)を継続的に行ってきたことによる効果が表れています。また、外国人市民による通学・買い物利用の定着も影響していると考えられます。

唯一1路線のみ微減となりましたが、前年度と比べると利用者数は増えています。

4. 【Act】 計画目標の達成に向けた今後の取組方針の作成

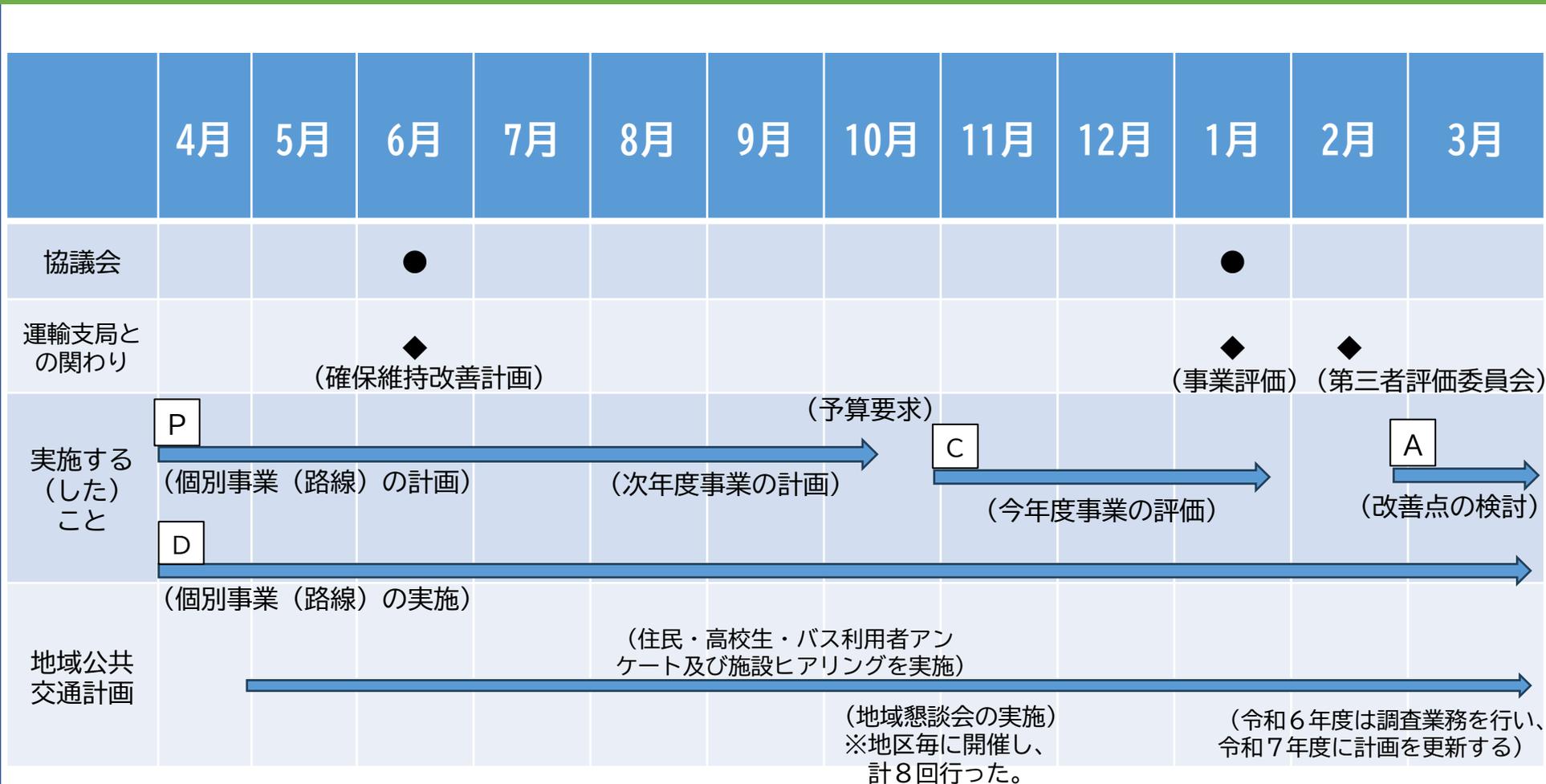
計画目標の現在の到達点	今後の取組方針
<p>目標1 に対して 乗り継ぎの待ち時間の不満は減った一方で、乗り継ぎに関する情報や案内に対する不満は増加しています。</p>	<p>乗り継ぎ効率化のため、鉄道及びあい愛バスとの接続を確認の上、ダイヤを見直したり、バス停や待合場所の環境改善をしたりする等をし、利用者の不満解決を図ります。</p>
<p>目標2 に対して 現在調査中ですが、利用者数が増えているため、利用割合も必然的に増加しています。</p>	<p>令和7年度中にみのかも定住自立圏公共交通基本構想を策定し、広域的に移動でき、利用のしやすい公共交通のサービスを提供できるようにします。</p>
<p>目標3 に対して R2はコロナにより減少しましたが、R3以降は増加傾向にあり、概ね目標値となりました。</p>	<p>観光部局と連携の上、公共交通を利用したモデルコースの作成やインバウンドに対応できるよう、看板やバスアナウンスの多言語対応を図っていきます。</p>
<p>目標4 に対して 1人当たりの行政負担額は利用者数の増加とともに、下がってきていて、R6は目標を達成しました。</p>	<p>あい愛バスの出前講座、市民まつりでの利用促進といった、バスと触れ合う機会を作り、広報やSNSを活用した周知・PRをし、公共交通利用者数を増やす取り組みをします。</p>
<p>計画全体の目標に対して あい愛バスの利用者数は増加傾向にあり、R6の利用は過去最多となり、目標を達成しました。</p>	<p>令和8年3月に公共交通計画を更新するため、アンケート調査や地域懇談会にて、現状や課題について整理を行い、今後の将来像を描き、あい愛バスはもちろんのこと、鉄道や路線バスも利用者数も増えるよう取り組みます。</p>

5. 直近2年間の二次評価の活用・対応状況

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	あい愛バスの令和6年4月のダイヤ改正については、改正後の利用状況等を注視し、その効果検証を行われることを期待します。	ダイヤ改正により、慢性的な遅延がなくなったこと、遅延の問い合わせがなくなったことを運行事業者を確認しました。	利用者や運行事業者からのアンケート及びヒアリング、利用状況等を注視し、必要に応じてダイヤの見直しを図ります。
	乗継を必要とする方の課題解決策として1日乗車券の導入など、更なる利用環境の向上や利用促進に向けて検討や取組が推進されることを期待します。	令和6年4月1日に導入した1日乗車券について、ホームページ、SNS、出前講座等で周知し、利用促進に繋がりました。	引き続き利用促進に繋げるため、周知を継続して行います。
前々回	今年度実施したアンケート結果を踏まえ、利便性向上に向けた検討がなされることを期待します。	アンケート結果や課題を踏まえ、乗り継ぎの負担解消やおでかけ促進のため、令和6年4月1日から、1日乗車券(1日300円で乗り放題)の導入に向けて協議を調べました。	令和6年4月1日に1日乗車券を導入しました。利用促進をするため、広く周知を図ります。
	次年度よりミライロIDなど導入され、利便性向上がなされることを期待します。	ミライロIDを導入したことにより利便性向上を図りました。	ステッカーやHP及び時刻表等に掲載し、継続的にPRしています。
	引き続き路線やダイヤの見直しを行うことや、新たな企画を実施していただいで利便性向上・利用促進に努めていただくことを期待します。	可能な限り、コミュニティバスと鉄道の乗り継ぎやすさに配慮しつつ、慢性的な遅延解消に向けたダイヤ改正を計画しました。	令和6年4月1日にダイヤ改正を実施しました。引き続き、利用者アンケートや地域懇談会を実施し、ダイヤの見直し及び新たな企画を計画します。

※前回：令和6年3月21日、前々回：令和5年3月10日

6. 計画・評価の推進体制



●第一回協議会：令和6年6月5日

主な議題：令和6年度事業計画・予算、令和7年度地域公共交通計画の認定申請等について

●第二回協議会：令和7年1月16日

主な議題：地域公共交通確保維持改善事業の事業評価、地域公共交通計画の策定期間の変更について、移動円滑化基準の適用除外申請等について

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月16日

協議会名: 美濃加茂市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持改善国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名・運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く)を受けている場合は、その旨記	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】
新太田タクシー株式会社	あまちの森・しょうよう線 (美濃太田駅南口～わらべ村～美濃太田駅南口)	①令和6年4月のダイヤ改正については、改正後の利用状況等を注視し、その効果検証を行われることを期待します。 ⇒地域懇談会の継続開催を計画し、令和6年10月と11月に市内全域となる8地区で懇談会を実施し、改正後の効果について意見交換を行いました。その他、9月と10月に利用者アンケート及び高校生アンケートを実施し、現在結果を分析中です。	A	計画どおり事業は適切に実施されました。	・年間利用者数 目標値/21,800人 実績値/22,836人 達成率/104.75%(達成) ⇒施設通所、買い物など日常的な移動手段として多く利用されました。
新太田タクシー株式会社	フルーツ山之上線 (美濃太田駅北口～山之上交流センター～総合福祉会館～美濃太田駅北口)		A	計画どおり事業は適切に実施されました。	・年間利用者数 目標値/7,400人 実績値/9,169人 達成率/123.91%(達成) ⇒通院、通学、買い物の移動手段として多く利用されました。
新太田タクシー株式会社	フルーツ蜂屋線 (美濃太田駅北口～蜂屋交流センター西～美濃太田駅北口)		A	計画どおり事業は適切に実施されました。	・年間利用者数 目標値/7,400人 実績値/9,649人 達成率/130.39%(達成) ⇒通学、通院、新規の利用者が増加しました。
新太田タクシー株式会社	さとやま線 (美濃太田駅北口～上廿屋～美濃太田駅北口)		A	計画どおり事業は適切に実施されました。	・年間利用者数 目標値/12,000人 実績値/15,751人 達成率/131.26%(達成) ⇒通学、買い物を中心に、利用者が定着した上、新規の利用者も増加しました。
					【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月16日

協議会名:	美濃加茂市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持改善国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>美濃加茂市の交通将来像「安心・安全で便利な公共交通をみんなで育み、いつまでも健康で豊かに暮らせるまち」の実現に向け、今後さらに加速する少子高齢化社会を踏まえ、通勤・通学・通院や買い物等の交通手段の確保はもちろんのこと、お年寄りや皆さんがバスを使って外に出かけることにより、地域のコミュニティづくりや安心安全、健康増進、街なかのにぎわい創出、環境負荷の低減等、多くの課題を解決するための地域生活基盤となる公共交通の整備を目指します。また地域間幹線として位置づけるJRへの地域内フィーダー系統の接続を維持し、中心市街地や市外への移動を支える市民生活に必要な公共交通とすることを目指します。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

令和7年1月16日

協議会名:美濃加茂市地域公共交通活性化協議会

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p style="text-align: center;">【事業内容及び結果概要を記載】</p>	<p style="text-align: center;">A・B・C 評価</p> <p>【事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由等記載】</p>	<p>【補助申請を行う補助対象事業名、事業内容、実施時期等を記載】</p>
<p>①都市特性と公共交通の現状把握 ビッグデータ等を活用し交通流動特性の調査を行いました。結果を基に、都市特性や公共交通の現状について把握し、上位・関連計画を整理しています。</p> <p>②各種ニーズの把握 市民アンケート、高校生アンケート、バス利用者アンケート等の調査を実施し、公共交通の現状や課題等の把握をし、今後の将来像について整理をしています。</p> <p>③地域公共交通の課題整理と地域公共交通計画案の検討 利用状況やニーズ調査等を基に分析をし、計画目標について達成度評価を行っています。整理してみえた今後の課題を解決するための方針や計画を検討し、とりまとめを行っています。</p> <p>④地域懇談会や協議会の開催等 地域の意見や意向を広く把握し、地域公共交通計画に反映するため、地域懇談会8回と出前講座を実施し、地域ならではの意見を聴取しました。地域活性化協議会は令和6年6月に行い、2回目は令和7年1月に開催。調査内容を共有し、今後の方針について意見交換を行いました。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p style="text-align: center;">計画どおり事業は適切に実施されました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通調査事業(地域公共交通計画策定事業) ・美濃加茂市公共交通計画の策定 ・美濃加茂市地域公共交通計画調査業務(令和6年度) ・美濃加茂市地域公共交通計画策定業務(令和7年度) <p>以上のことから、計画期間は令和8年4月から令和13年3月までの5カ年とした、美濃加茂地域公共交通計画を令和8年3月に策定します。</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月16日

協議会名:	美濃加茂市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域公共交通調査事業(地域公共交通計画策定事業)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	現行の美濃加茂市地域公共交通網形成計画は、令和2年に第2次計画として策定したものであり、この計画が令和8年3月に計画期間の更新時期を迎えることから、次期計画を策定するため、令和6年度に調査、令和7年度に策定業務を実施します。美濃加茂市総合計画、都市計画マスタープラン、立地適正化計画等の上位・関連計画との整合性や、公共交通を取り巻く現状や社会情勢の変化の視点から見た課題、広域的な移動需要や幹線公共交通ネットワーク維持の視点からみた課題等も整理しながら、美濃加茂市が目指す将来都市像及び公共交通の基本方針等を含めた、地域公共交通網計画を策定します。